

アルファ・ウイン 企業調査レポート

デジタルメディアプロフェッショナル

(3652 東証マザーズ) 発行日：2021/6/3

アルファ・ウイン 調査部
<http://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ グラフィックス技術に特化した研究開発型ファブレス半導体ベンダー

・デジタルメディアプロフェッショナル（以下、同社）は、同社が独自に開発したグラフィックス技術をライセンス供与、またはこれを組み込んだ LSI 製品の生産を外部委託し販売する研究開発型ファブレス半導体ベンダーである。近年では人工知能（AI）関連のソフトウェア製品のラインナップの拡充、受託開発にも注力している。

◆ 2021 年 3 月期業績

- ・同社は、2021/3 期決算公表（5 月 14 日）に先立つ 4 月 9 日に 2021/3 期業績予想を下方修正した。期初予想を下方修正したもので、売上高は 1,500 百万円から 1,000 百万円へ、営業損失は 150 百万円から 430 百万円へ引き下げており、実績は修正予想並みでの着地となった。
- ・同社の 2021/3 期業績は、売上高 1,009 百万円（前期単体比 24.0%減）、営業損失 425 百万円（前期単体 82 百万円の利益）、経常損失 361 百万円（同 85 百万円の利益）、親会社株主に帰属する当期純損失 364 百万円（同 65 百万円の利益）であった。同社は 2020 年 4 月にベトナムに完全子会社を設立し、2021/3 期第 1 四半期より連結財務諸表を作成しているが、現段階におけるベトナムの子会社の売上高計上先は親会社のみで外部売上高はない。
- ・事業別売上高では、IP コアライセンス事業は 144 百万円（前期単体比 62.1%減）。AI を活用した車両（ロボティックビークル）向けの新規ライセンス契約や新たな安全運転支援サービスに係るリカーリングビジネスによる収入があったものの、デジタルカメラを中心とするデジタル機器向けランニングロイヤリティ収入の落ち込みに、一部顧客の開発投資及び開発プロジェクトの抑制や先送りによる新規ライセンス販売の不振が重なり減収であった。
- ・LSI 製品事業は 658 百万円（前期単体比 19.0%増）。パチンコ・パチスロ向け画像処理プロセッサ「RS1」の量産出荷が増収に貢献、組込み機器向け AI FPGA（書換え可能な論理回路 LSI）モジュール「ZIA C3」の業務車両向け量産売上計上もあった。ただ、新台遊技機の検定通過率が低く推移したことや度重なる緊急事態宣言の発出を始めとするコロナ禍で悪影響長期化を受けて遊技機メーカーの販売台数が計画を下回ったこと等から、RS1 の出荷数量は同社の当初見込みに及ばなかった。
- ・プロフェッショナルサービス事業は 206 百万円（前期単体比 47.7%減）。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）向けの受託収入、及びロボティックビークル向け等の AI 関連受託開発サービスを売上計上したものの、顧客の開発プロジェクトの抑制や先送りが大きな減収要因となった。
- ・売上総利益は 335 百万円（前期単体比 50.1%減）であった。利益率の高い IP コアライセンス事業の大幅減収と、相対的に利益率の低い LSI 製品事業の売上構成比上昇により売上総利益率は 33.2%と前期単体に比べ 17.3%ポイント低下した。
- ・販売費及び一般管理費（以下、販管費）は、研究開発費が前期単体比 71.3%増の 257 百万円へと積み上がったことを主因に同 29.2%増の 760 百万円となった。売上総利益減少に販管費増が重なり、営業損失は 425 百万円と前期（単体営業利益 82 百万円）から悪化した。

・経常損失の悪化幅は営業損失の悪化幅に比べ縮小した。営業外収支で、前期に計上した新株発行費（56百万円）の剥落に加え NEDO からの助成金収入（60 百万円）の計上があったためである。

◆ リカーリングビジネスが 2021 年 3 月期にスタート

- ・前述のように、IP コアライセンス事業においてリカーリングビジネスが 2021/3 期からスタートした。このリカーリングビジネスでは、第 2 四半期会計期間からランニングロイヤリティ収入を、第 4 四半期会計期間からサブスクリプション収入を計上している。
- ・ロイヤリティ収入の案件は、安全運転支援システム開発プラットフォームとして多くの実績がある「ZIA™ SAFE」が、JVCケンウッド（6632 東証一部）の通信ドライブレコーダーに採用され、運転支援やドライバーモニタリング等の機能に活用されている。
- ・サブスクリプション収入の案件は、デンソー（6902 東証一部）の子会社であるデンソーテンが発売している法人向けの通信型ドライブレコーダーに「ZIA™ SAFE CLOUD」が採用され、ヒヤリハット映像の判別および「ながら運転」、「居眠り運転」等の高精度分析に活用されている。

◆ 自己資本比率は高い水準を維持

- ・自己資本比率は 2020/3 期末（単体）92.2%、2021/3 期末（連結）93.5%と高い水準を維持している。現金及び預金は 2,066 百万円と、2021/3 期の売上高の 2.0 倍に相当する。

◆ 2022 年 3 月期業績予想

- ・同社の 2022/3 期業績予想は、売上高 1,500 百万円（前期比 48.5%増）、営業損失 250 百万円（前期は 425 百万円の損失）、経常損失 250 百万円（前期は 361 百万円の損失）、親会社株主に帰属する当期純損失 252 百万円（前期は 364 百万円の損失）である。
- ・事業別売上高予想は、IP コアライセンス事業では 210 百万円（前期比 45.8%増）、LSI 製品事業は 910 百万円（同 38.3%増）、プロフェッショナルサービス事業は 380 円（同 84.5%増）である。
- ・IP コアライセンス事業では、顧客の開発投資抑制の影響がなくなることによるライセンス収入が見込める他、2021/3 期から開始した 2 つのリカーリングビジネスが通期寄与見込みである。
- ・LSI 製品事業においては、顧客による新機種（パチンコ・パチスロ）開発の本格化が見込まれるものの、2021/3 期に生じた流通在庫滞留の影響を織り込んで、RS1 の売上高を 840 百万円（前期比 30.0%増）と予想している。
- ・プロフェッショナルサービス事業では、NEDO からの受託収入はなくなるものの、ロボティクス向け等の AI 関連受託開発サービス、加えて顧客の開発プロジェクト抑制や先送りの解消が見込めるとしている。
- ・営業外収支予想は、NEDO から助成金収入を得ていた事業の契約期間が 2021/3 期で終了することを受けて 0 百万円を見込む。そのため、経常利益予想は営業利益予想と同額となる予想としている。

◆ 中期経営計画を開示

- ・同社は、2021/3 期業績予想の下方修正公表と同時に「中期事業方向性に関するお知らせ」を、2021/3 期決算公表と同時に中期事業方向性に数値目標を加えた「中期経営計画に関するお知らせ」をリリースした。
- ・中期経営計画では、2024/3 期に売上高 2,500 百万円、営業利益 200 百万円を目指すとしている。同社は、アミューズメント関連を除く事業分野を主に「安全運転支援分野」と「ロボティクス分野」に区分けし、それぞれ注力市場として位置づけた。一方、アミューズメント関連分野については、市場の絶対的規模はまだまだ大きいとの認識からシェア拡大を目指すとしている。

- ・安全運転支援事業については、売上高目標を 2021/3 期実績の 49 百万円から 2024/3 期には 289 百万円、2026/3 期には 358 百万円、リカーリングビジネス比率を 2021/3 期の 10%から 2026/3 期には 57%へと引き上げることを目標に掲げている。ロボティクス事業については、売上高を 2021/3 期の 166 百万円から 2024/3 期には 587 百万円、2026/3 期には 1,199 百万円への拡大を目指すとしている。
- ・アミューズメント事業の中期見通しとしては、2023/3 期に既存顧客機種への採用拡大の本格化と新規顧客の獲得（確定案件あり）を見込んでおり、2021/3 期に 646 百万円であった RS1 の売上高が 2023/3 期及び 2024/3 期とも 1,500 百万円に達するとしている。

◆ アルファ・ウイン調査部の 2022 年 3 月期予想

- ・アルファ・ウイン調査部（以下、当調査部）は、前回発行したレポート（2021 年 2 月 24 日発行）における 2022/3 期業績予想を同社予想並みに下方修正する。具体的には売上高 1,500 百万円（前回予想 2,200 百万円）、営業損失 250 百万円（同 65 百万円の利益）、経常損失 250 百万円（同 65 百万円の利益）、親会社株主に帰属する当期純損失 252 百万円（同 52 百万円の利益）を予想する。
- ・事業別売上高予想については、IP コアライセンス事業は 210 百万円（前期比 45.8%増、前回予想 250 百万円）、LSI 製品事業は 910 百万円（同 38.3%増、同 1,500 百万円）、プロフェッショナルサービス事業は 380 百万円（同 84.5%増、同 450 百万円）と、同社予想並みとした。
- ・IP コアライセンス事業は 2021/3 期売上高が前回予想の 170 百万円に対し実績が 144 百万円となったこと等を受けて、2022/3 期予想を 250 百万円から 210 百万円に引き下げた。LSI 製品事業は 2021/3 期売上高が前回予想 1,020 百万円に対し実績が 658 百万円にとどまったこと等から、2022/3 期予想を 1,500 百万円から 910 百万円に引き下げた。また、プロフェッショナルサービス事業は 2021/3 期売上高が前回予想 310 百万円に対し実績が 206 百万円となり、2022/3 期予想 450 百万円を 380 百万円に引き下げた。
- ・全社ベースでは増収を確保するものの、売上高水準が損益分岐点を上回らないため、営業利益は前回予想 65 百万円の利益から 250 百万円の損失見込みとした。

◆ アルファ・ウイン調査部の 2023 年 3 月期予想

- ・当調査部は新たに 2023/3 期業績予想を策定し、売上高 2,000 百万円、営業利益 20 百万円、経常利益 20 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 7 百万円を予想する。
- ・売上高予想は同社計画を下回り、一部の製品売上高予想は同社計画と異なっている。IP コアライセンス事業は 350 百万円（前期比 66.7%増）、LSI 製品事業 1,200 百万円（同 31.9%増）、プロフェッショナルサービス事業 450 百万円（同 18.4%増）とした。
- ・IP コアライセンス事業はリカーリングビジネスの上乗せや AI 関連のライセンス収入の増大を見込んだ。LSI 製品事業は、同社計画の RS1 売上高 1,500 百万円を下回る予想とした。遊技機メーカーにおける 2022 年 1 月末の旧規則機完全撤去に伴う新規機への入れ替え需要と新規顧客獲得での数量増を慎重に考慮したためである。プロフェッショナルサービス事業は、AI 関連受託開発に対応した開発要員の増員効果による増収を見込んだ。
- ・全社ベースの売上高では会社計画を下回るものの、利益段階では採算性の高い事業の増収により、同社の中期経営計画並みの数値が見込めるとした。

【 3652 デジタルメディアプロフェッショナル 業種：情報・通信業 】 図表 A

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2019/3	1,086	11.6	28	-58.5	33	-49.9	35	-67.8	12.54	710.70	0.0
2020/3	1,328	22.2	82	185.6	85	155.4	65	86.0	21.21	1,131.88	0.0
2021/3	1,009	-24.0	-425	-	-361	-	-364	-	-116.03	1,032.07	0.0
2022/3 CE	1,500	48.5	-250	-	-250	-	-252	-	-80.02	-	0.0
2022/3 E	1,500	48.5	-250	-	-250	-	-252	-	-80.02	952.05	0.0
2023/3 E	2,000	33.3	20	0.0	20	0.0	7	0.0	2.22	954.27	0.0

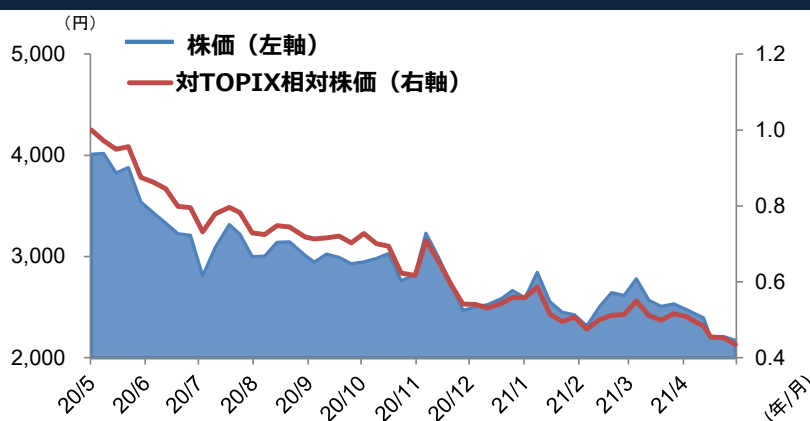
(注) CE：会社予想、E：アルファ・ウイン調査部予想

【 株価・バリュエーション指標：3652 デジタルメディアプロフェッショナル 】 図表 B

項目	2021/5/28	項目	PER (倍)	PBR (倍)	配当利回り	配当性向
株価 (円)	2,172	前期実績	-	2.1	-	-
発行済株式数 (千株)	3,152	今期予想	-	2.3	-	-
時価総額 (百万円)	6,847	来期予想	977.2	2.3	-	-
潜在株式数 (千株)	0	前期末自己資本比率		93.5%	前期ROE	-22.4%

(注) 予想はアルファ・ウイン調査部予想

【 株価チャート (週末値) 3652 デジタルメディアプロフェッショナル 】 図表 C



【パフォーマンス】		
期間	リターン	対TOPIX
1か月	-12.4%	-14.6%
3か月	-10.4%	-14.2%
6か月	-34.8%	-41.2%
12か月	-45.8%	-56.5%

(注) 月末値が基本、直近1か月は4/30と5/28との比較

ディスクレマー

アルファ・ウイン企業調査レポート（以下、本レポート）は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社（以下、弊社）が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。（更新された）最新のレポートは、弊社のホームページ（<http://www.awincap.com/>）にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.jp】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。